



# 重要文化的景観

「なりわいの形」を大地に刻む文化財



国が選定する「重要文化的景観」は、平成17年に生まれた新しい文化財類型で、本県では「姨捨の棚田」がこれにあたります。「景観」というと「美しいもの」と思われがちですが、この文化財の「景観」とは、土地利用のあり方や仕組みが生み出した景色のことです。偶然美しい場合もありますが、肝心なのは美ではなく、「その土地に重層的に刻まれた人々の営み」なのです。人々の生活や産業のありかたの象徴として景観を守るといふ、世界遺産の保護から生まれてきた考え方です。


おばすて たなか  
姨捨の棚田  
(千曲市)

姨捨の棚田は、名勝「姨捨(田毎の月)」の指定範囲を含む千曲市八幡の棚田の広い範囲を選定した文化的景観です。姨捨は山体崩壊や土石流で形成された斜面なので崩れやすく、農地とりわけ水田として利用するのはもともと困難な場所です。

そこで、更級川の上流に溜池を造り、川を水路として姨捨まで流すという灌漑体系を作りました。しかし、姨捨の斜面は小さな尾根と谷が集まっているため、斜面全体に用水を張り巡らせるのは容易ではありません。ここで採用されたのが「田越」の灌漑で、ガニと呼ばれる暗渠や、畦越して田から田へと水がめぐらされています。田をめぐった水は下方の集落でも利用されており、水田と集落が一体となった水利体系と景観、それらを支える武水別神社を核とした地域共同体が重要文化的景観の骨格です。



姨捨の棚田 姨捨のうち姫石地区の棚田景観



## 文化的景観の種類

文化財として選定されている重要文化的景観ではありませんが、長野県内には、あちこちに良好な「文化的景観」が残されています。特徴に注目していくつか具体例を挙げてみましょう。

急傾斜地の居住・生業  
(飯田市の下栗集落ほか)

南アルプスの山懐に抱かれ、中央構造線に由来する地滑り地形を利用して急傾斜地に営まれている集落があります。限られた湧水や可耕地を工夫して利用する仕組みが興味深い文化的景観です。県内には、小川村や長野市中条などにも別のタイプの山間集落があります。



しもぐり 下栗集落 飯田市下栗の急傾斜地の集落

あずみの 安曇野のわさび田・鱒池  
(安曇野市・池田町ほか)

扇状地の扇端の地形を利用し、北アルプス由来の湧水を引く複雑な水路網によって築き上げられた「わさび田」「鱒池」と集落が一体となった景観は、近代まで重層的に形成されてきた安曇野を代表する景観です。

いおうこうざん  
硫黄鉱山の文化的景観  
(須坂市:米子)

須坂市米子に残る硫黄鉱山跡は、山中に存在した鉱山の遺跡です。最盛期には学校や娯楽施設も備えた「工業都市」と言っても良いところで、残念ながら現在は操業していませんが、鉱工業に関わる文化的景観の一種です。

こすげ 小菅の文化的景観  
(飯山市)

小菅は、交通や水の便が悪い場所で、地形・地質の特徴を実に上手く利用して集落が営まれています。その特色は石垣と水路(水回し)の2点に顕著に表れています。集落上方の山際から展開する立派な石垣をもった水田や、かつて「内山紙」として知られた和紙の生産に用いられた集落内の水回しなどは、時代に応じて変化しつつも山に寄り添った暮らしぶりを良く示しています。その土台には中世の山岳霊場の土地利用がひそんでいますので、現地を歩くと様々な場所で重層的な土地利用とダイナミックな変化を目にすることができます。



小菅の里 小菅集落の中心道路は、妙高山に向かっていく